

防災講座「避難生活を学ぶ」5回目

太陽の丘町内会便り

平成27年9月19日

菅山公民館 19時～

若杉正則

8月15日(土)に開催する予定であった講座はお盆の最中でもあり欠席者が多く休講としました。

本日のテーマ「避難地での避難生活」「非常持ち出し品」を持って

次第は

- 1、 オリエンテーション
- 2、 アイスブレイク
今日の進行役
- 3、 非常持ち出し品の紹介
私の非常持ち出し品、私の非常食
- 4、 若杉の非常持ち出し品の紹介と非常食の紹介
- 5、 簡易テントの作り方
- 6、 菅山ふるさと祭りの参加
- 7、 次回講座の説明 閉会

1、 オリエンテーションで本日の次第と進行状況を説明した後、

2、 アイスブレイクで本日の進行役を決め

3、 非常持ち出し品の紹介

各グループ毎に「私の非常持ち出し品、私の非常食」の紹介を進行役を口切として順次紹介していただきました。その中で「これは」と思ったものをポストイットに書き出してもらいました。その結果

2、 4丁目グループでは

「雨具を防寒着として活用」「ジブロック 衣類を圧縮袋に入れる」「ラップの利活用」「反射材」「発電ラジオ・ライト」「非常持ち出し品が多いので最小限度にとどめ家や車にも常備」

1、 3丁目グループでは

「両手が離せるリュック」「一郎さんのポンチョ」「常備薬、保険証の写し、お薬手帳」「新聞紙」「カッター、ナイフ」「缶詰よりレトルト」「救急薬」「歯磨き、バスタオル(体を保温)」

「メモ用紙、ペン、ライター」

などが挙げられました。どれもなかなか良い着目に思えました。

4、 若杉の非常持ち出し品の紹介と非常食の紹介

	品目 (ひとまとめとして持つ)	優先順位
1	懐中電灯・雨具・履物	1位
2	非常食 (直ぐに食べられるもの)・飲料水	2位
3	携帯トイレ・トイレットペーパー・トイレカバー (自転車用)	2位
4	上着・ズボン・防寒着・靴下	3位
5	下着・パンツ・Tシャツ・長袖シャツ	3位
6	常備薬・救急用品・保険証 (写し)・お薬手帳	4位
7	タオル・清拭タオル・歯ブラシ・マスク	4位
8	テント・ブルーシート・ロープ	5位
9	寝袋・マット・使い捨てカイロ	5位
10	ラジオ (防災ラジオ)・予備電池・発電ライトラジオ	6位
11	携帯コンロ・ボンベ・コップ・ライター	6位
12	ビニール袋・手袋 (防水性)・新聞紙	6位
13	ナイフ・はさみ・のこぎり	6位
14	携帯トイレブース・尿ボトル・タンク	6位
15	防虫グッズ・蚊取り線香	6位
	ザック・ヘルメット	

ベビー用品 ミルク・哺乳瓶・離乳食・オムツ・清拭布・毛布・肌着・ガーゼ・着替え

介護用品 車椅子・オムツ・簡易トイレ・清拭布・毛布・着替え

関連するものをひとまとめにしました。着る物はもちろんの事すべての物をジブロック等で袋詰めしました。中に何が入っているか明細を書き、出し易く使い易くするための工夫です。

ザックにも詰め易くコンパクトにまとまります。長年登山をしてきた体験でしょうか。

非常持ち出し品の順位を示すならば一番には「懐中電灯、雨具、履物」でしょう。

なぜならば 避難する時が日中とは限りません。夜間の場合もあります。暗がりでは人は行動できません。次に雨具です。体が濡れては低体温症になります。防寒の役にもなります。更に履物ですが足にけがを負えば避難する事も出来ません。家の中でもガラス等の危険なものが散乱している場合もあります。この3点だけは枕元に置いていただきたいと思います。勿論子供の分を揃え各自が持つようにしてください。

非常持ち出し品という直ぐ水・食料になると思いますが、トイレのことを忘れないでください。飲み物や食べ物は我慢が出来ます。しかし生理現象は我慢できません。避難地・避難所に避難したからといってトイレが使用出来る訳ではありません。男の人ならば「ちょっとそこらで」と云う事も出来ますが、女性の場合はどうでしょうか、我慢することは死ぬほどの苦しみだと思います。「そこらじゅうでした場合」衛生状態はどうでしょうか、そこが一時的避難地である市役所や公共施設、又避難所となる学校やコミュニティセンター等で、そのようなことがあった場合、その後の業務や避難所として使うことが出来るのでしょうか、避難する場合トイレの事を最重要課題として考えていただきたいと思います。**「水・食料持つならトイレも忘れずに」**優先順位3として着る物は必要でしょう、各々ジブロック等で袋詰めしてください。

優先順位4として常備薬は必要ですし、タオルやバスタオルがあれば体の保温にも役立ちます。優先順位5となりますがテントや寝袋などがあれば避難地での避難生活も数日で有れば可能でしょう。



10月4日（日）さざんかふれあい広場で展示した「非常持ち出し品」の一例です

トイレ問題を考えた「非常持ち出し品」を作ってみました。仮称「非常用トイレ」

携帯トイレ	10枚
男子用トイレ袋	2枚
トイレットペーパー	1個
自転車用カバー	1枚
消臭剤	1本
水500ml	2本
非常食 おかゆ4個ソイジョイ12本	
ゴミ袋	1枚
発電電灯ラジオ	1個
ヘッドランプ	1個
雨具	1着
防水シート	1枚
レスキューシート	2枚



これ等を15ℓの密閉バケツに納めます。自転車カバーは女性がトイレをする時の覆いとして使いまたテント代わりとなります。臭いは消臭剤で消してください。水と食料もあります。情報が取れるラジオもあり、雨具（合羽 出来ればゴアテックスの様な通気性と保温性を備えたものが良い）もあり雨や寒い時の防寒にも役立ちます。一人1個を備えていざというとき持ち出ししてください。また市役所や公共施設に職員一人に1個備えて置けば避難してきた人と共同で使用できると思いますので是非備えて下さい。

避難地の防災倉庫にも飲料水や食料だけでなく、この様なトイレ問題を重視した「非常用持ち出し品」を是非備えて下さい。

避難地への避難も自分が住んでいる地域環境により異なると思います。例えば「津波浸水区域」では避難が出来て命が助かったとしても津波によって家は流され帰る事が出来ないかもしれません。

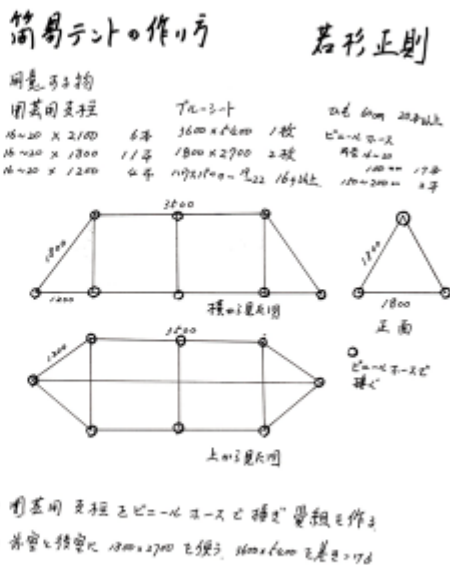
「避難所」が開設されるまでは「避難地」で数日過ごすことも考えられます。テントや寝袋も必要ですが重い荷物を持っての避難はかえって命取りともなりません。先ほど紹介したトイレを考えた「非常持ち出し品」の携帯トイレの枚数を減らしたり、密閉バケツをザックに変えたり、防寒用の衣類を持つなどして、「我が家の非常持ち出し品」を作ってください。乳幼児や要介護者等いる家庭ではさらなる配慮が必要と思われます。要は「避難しなくてよい環境」に有ることが一番良いことですが、そのような環境にある家族は少ないと思います。

「我が家の災害リスク」を知り、想定外を想定した「被害状況」を知り「我が家の非常持ち出し品」を用意して「何処に避難したらよいか」、そこに安全に行くには「どの避難経路」を取ればよいか、家族間で平日頃から話し合っておくべきと思います。

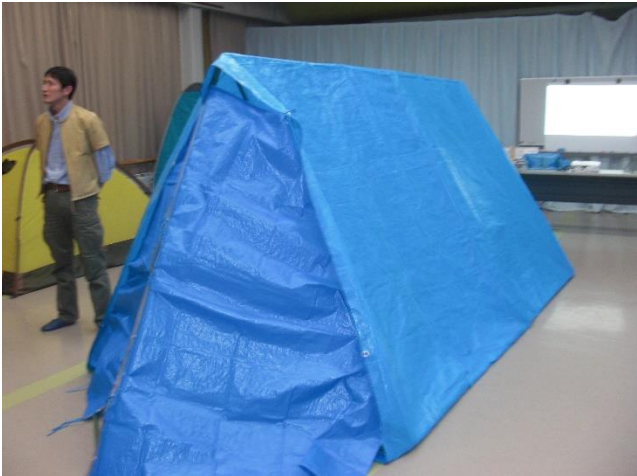
5、「簡易テントの作り方」紹介

ブルーシートと園芸用支柱を使った簡易テントを紹介しました。

- 簡易テントの作り方**
園芸用支柱
 16~20
 2100⇒ 6本
 1800⇒11本
 1200⇒ 4本
ブルーシート
 3, 6*5, 4⇒1枚
 1, 8*2, 7⇒2枚
ハウスパッカー⇒16個
ひも 60cm ⇒20本
ビニールホース⇒
 10cm⇒17本
 20cm⇒ 2本

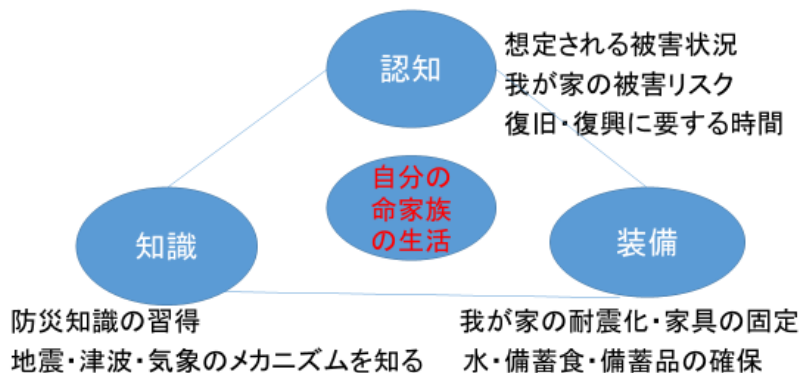


簡易テントの使い方としては サブテントとして使える。万一避難所に入った場合でもプライバシー確保の空間づくりが出来る。普段使いの物置として利用等がある。



6、サバイバルトライアングルの紹介

サバイバルトライアングル



7、「菅山ふるさと祭り」への参加

11月1日（日）の「菅山ふるさと祭り」で「非常持ち出し品」と「災害時のトイレ」と題して展示物を出展致しますので是非参考にしてください。

8、次回講座の紹介

10月17日（土）の防災講座「避難生活を学ぶ」では、「避難所に避難した時の避難生活」と題して行います。「炊き出し」として「カレーライス」を食しながら進めたいと思います。また先月発生した「北関東豪雨災害」を想定した「避難方法」をも考えてゆきたいと思っています。「菅山で80～100ミリ超の豪雨が発生菅ヶ谷川が氾濫、各地で土砂災害発生」を想定した時、自分及び家族はどうすればよいか、難しい問題と思いますが考えておく必要があると思います。

若杉正則